

校長通信

Morifun

肌寒い日もあれば、上着がいらぬ日もありますが、確実に季節は歩みだしているようです。新型コロナウイルスへの対応も少しずつではありますが変化が見られ、5月14日には本県を含む39県で緊急事態宣言が解除されました。とは言っても世界に目を向けると、コロナによる死者が世界全体で30万人を超え、感染者は440万人を上回っています(5月15日現在)。自粛ムードが緩むことに心配する声も聞かれますが、新しい生活様式を取り入れて一刻も早い収束を望むところです。

<新型コロナウイルス感染症対策講話の実施>

4月28日(火)、盛岡大学栄養科学部教授の久保木眞先生を講師としてお招きし、新型コロナウイルス感染症対策講話を実施しました。久保木先生はウイルス肝炎の疫学・診断・治療を主に専門とされており、感染症の症状、潜伏期間、治療法、感染経路、予防法などについて様々な視点から詳しくお話いただきました。特に、1人の感染者が周囲に次々感染させていく過程を生徒を立てて説明していただき、あっという間に立つ生徒が増えていく様子に、危機意識を新たにしました。手洗い、マスクの着用、社会的距離を置いて運動をする際の注意点など大変勉強になりました。

<5/12 生徒総会>

今年度の生徒総会はコロナ対策のため初めて放送を使用して実施されました。生徒は各教室に待機し、生徒会執行部や各委員長、各部の部長などが順繰りに職員室に来てマイクの前に座り議事が進行されました。執行部による事前の準備が功を奏し、案件は全て可決されました。今年度の生徒会スローガンである『挑～Let's give it a try!!～』が着実に生徒たちにも伝わっているようです。生徒一人ひとりが主体性を持って取り組むことを期待します。執行部の皆さん、お疲れ様でした！



<4/21 全校礼拝より>

新約聖書 マタイによる福音書 6章34節

「だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」

皆さんは「明日」という言葉を聞いてどんなイメージを抱くでしょうか。「明日」という言葉は、例えば希望に満ちた未来というイメージで使われることもあります。それは明るい希望溢れるイメージです。一方で「明日」は私たちに不安を与える言葉になることもあります。例えば明日やらなければいけないことがたくさんあったら、どうでしょうか。「明日」は私たちにとって不安を抱かせる言葉になります。特に今、新型コロナウイルスの感染

拡大によって、「明日」この先のことがよく見えない不安な状況が続いています。こういう中では「明日」は心配事や不安の原因となります。明日の不安になんだか押しつぶされそうになります。そういう私たちに向かってイエスは「明日のことまで思い悩むな。」と告げています。もちろん明日のこと、先のことをしっかり考えることは大切なことです。このイエスの言葉は、明日のことは一切考えなくてよい、無計画であってよいと言っているではありません。私たちにとってももちろん明日という日は大切ですが、今日という日も大切です。今日という日をとばして明日という日が訪れることはありません。つまり明日のことばかり思い悩んでいるときに忘れてしまうのは今日という日なのです。今日という日に目を向けて今日という日を大切に生きる。その積み重ねによって明日という日が形づくられてくるのではないのでしょうか。このイエスの言葉は今日という日に私たちの心向けさせてくれる言葉だと思います。

ここで本を紹介をします。それはミハエル・エンデの「モモ」という児童文学で、「時間どろぼうとぬすまれた時間を人間にかえしてくれた女の子のふしぎな物語」というサブタイトルが付いています。主人公モモには大切な友達がたくさん出てきますが、その中に歳の離れたベツポという道路掃除のお爺さんが登場します。ある時、ベツポ爺さんがモモに語り掛けます。

「なあ、モモ、」とベツポはたとえこんなふうにはじめます。「とっとも長い道路をうけもつことがあるんだ。おっそろしく長くて、これじゃとっともやりきれない、こう思ってしまう。」

しばらく口をつぐんで、じっとまえのほうを見ているが、やがてまたつぶやきます。

「そこでせかせかと働かだす。どんどんスピードをあげてゆく。ときどき目をあげて見るんだが、いつ見てものこりの道路はちっともへっていない。だからもっとすごいいきおいで働きまくる。心配でたまらないんだ。そしてしまいには息がきれて、動けなくなってしまう。道

路はまだのこっているのにな。こういうやり方は、いかなのだ。」

ここでしばらく考えこみます。それからようやく、さきをつづけます。

「いちどに道路ぜんぶのことを考えてはいかん、わかるかな？つぎの一步のことだけ、つぎのひと呼吸のことだけ、つぎのひと掃きのことだけを考えるんだ。いつもただつぎのことだけをな。」

また一休みして、考えこみ、それから、

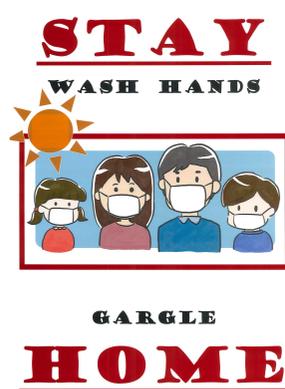
「するとたのしくなってくる。これがたいじなんだな、たのしければ、仕事がうまくはかどる。こういうふうによらにゃあだめなんだ。」

ひょいと気づいたときには一步一步進んできた道路が終わっている。どうやってやり遂げたのか自分でも分からない。でもこれが大事なんだと彼は結びます。このベッポというお爺さんは、長い道路の掃除を担当していて、いつまでたっても終わらない気がする、心配でたまらない。焦ってしまう。そういう時に次の一步のことだけ考えるようにする。次の一步、次の一呼吸、次の一掃きのことを考えて仕事をする。すると楽しくなってくるし、気づいたときには長い道路の掃除が終わっている。この言葉は私たちの日々の生活にも大事なことを伝えてくれています。明日のこと、先のことばかりを見ようとしていると、私たちはどんどん心配になって焦ってきます。心から喜びや楽しみが失われてくる。それに対して今日のこと、今やるべきこと、今できることを考え集中していくと、心の落ちつきを取り戻していくことができます。こういう風に皆さんと一緒にまずは今日という日を大切にしていきたいと思います。そして今日を生きることの積み重ねが明るい明日に繋がっていくと信じています。(花巻教会牧師 鈴木道也先生)

今年度初めての全校礼拝も一斉放送で行われました。Today is a gift. (今日こそが贈り物) にも繋がる貴重な説教をいただきました。

<英語科 1年生の取組>

1年生が英語の授業で新型コロナウイルス感染症対策のためのポスター作りに挑戦しました。右京先生によるユニークな取組です。その一部を紹介します。



～貴方の行動一つで世界を救う～

You can save the world
if you stay home.

あなたの家で、あなたは世界を救える。



<今月お勧めの一冊>

1年生にはまだ話していませんが、私は大の映画ファンです。映画館に行って大きなスクリーンで鑑賞するのが趣味です。テレビやDVDでは物足りません。映画館で一人映画の世界にどっぷり浸かるのが快感です。1日に2本観ることもざらにあります。ジャンルも問いませんが、どちらかというと洋画が6から7割を占めますが、

アカデミー賞やキネマ旬報ベストテンの作品は欠かしません。昨年の鑑賞数は79本、今年は映画も読書も100を目標にしていました(たくさん観て、たくさん読むのが偉いわけではありません)が、このコロナ騒ぎで映画は奪われてしまいました(とは言っても県内では映画館も再開されることになり、ホッとしています)。その分読書に傾ける時間が増え、自粛制限中のゴールデンウィーク(臨時休業中の8日間)には7冊読みました(もちろん日課のアイロンがけや靴磨きに普段しない窓拭きも行いましたが…)

前置きが長くなりましたが、最近読んだ本の中から、今月の推薦本は**柚木麻子の『王妃の帰還』**(実業之日本社文庫)「クラスのトップから陥落した“王妃”を救うため、地味女子四人が大奮闘。女子中学生の波乱の日々を描いた傑作長編!」というのが作品のレビューですが、割と薄い本なのですぐに読めます。私に少女趣味はありませんが、学園ものは嫌いではありません。目まぐるしく立場が変動していく中学、高校の女子特有の人間関係(私にはあくまで想像の世界ですが…)が上手に描かれていると思います。さらに深く鋭く子どもたちの複雑な人間関係を描いているのは、**朝比奈あすかの『君たちは今が世界(すべて)』**(角川書店)、これもお勧めです。小学校が舞台ですが、子どもたちと教師との関係も描かれているので先生方にも読んでほしい1冊です。私も大昔ではありますが中学、高校時代に友人関係や人間関係に悩んだ時期もありました。今思えばちっぽけなことなのですが、何気ない言動で傷つけたり、傷つけられたりと、やはり人の痛みを想像する力が少し足りなかったのかなと思います。本の世界の登場人物たちと自分をオーバーラップさせ、それはないだろうとか、共感できるとか、自分の生き方や行動を時には振り返る機会にもなる読書の時間を皆さんにも楽しんでもらいたい。

今月の言葉「真の贅沢というものは、ただ一つしかない、それは人間関係の贅沢だ。」(サン＝テグジュペリ)